

青木学院 満森先生

5年半にわたり、御指導いただきありがとうございました。
複数の合格のみならず、熱望していた東京理科大学理学部
応用化学科の合格をいただき、入学することができたのも、中学生の
頃から根気よく大学受験をみおえた指導をし続けてくださった
からこそだと思います。

息子の受験で実感した「青木学院・満森先生の(良い)ところ」を発信したいので、よろければ保護者の声として寄せさせてください。

〈青木学院の良い・すごいところ〉

- ① 合格実績のための進路指導はしないこと。
- ② 上手くいかせるための算段を、生徒と対話しながら本人に考えさせ、決められるように導くこと。
- ③ 高校受験はあくまでも通過点と考え、大学受験で戦える力を養うための指導をしていくこと。
- ④ 得点・順位に一喜一憂せず「間違えかた」に目を向ける指導をしていくこと。

親から見て特に感じた事を端的にまとめると、この4点です。

息子は、中1の秋から通塾しましたが、県立高校入試では希望叶わず不合格でした。

進学した私立高校では、ギリギリの内申点での出願でしたがステップアップ合格を果たして上位クラスで入学し、さらに2年進級時に成績最上位クラスへと移行しました。

中2の3学期に数学で36点を取、てくるような状況から入学後は常に数学で上位10%には入り、3年時の模試では数Ⅲで校内トップも達成できるようになりました。

彼自身の努力はもちろんですが、その行動の軸には青木の指導があった、だからだと思っています。

中3生の進路面談を控え、頃当なところで麻溝の上南を志望先にするところを「やはり座間校受けたらいいです」と言いたしたら、NGを出す学習塾の方が多いと思います。

(当時、定員も今より少なが高倍率でした)

それでも塾長は、迎えに来ていた私を招き入れ、緊急3者面談を設けてくださいました。

塾長は、本人の話(理系への拘り)、親の意見と覚悟を聞いた上で、前年度のデータを使って、息子の現状と合格に必要な点数のギャップを示しました。

それを基に、息子と対話しながら「何が必要」「必要な点数の取り方」「点数を取る為に明日からすべきこと」を本人に考えさせ、決めさせて、実行する覚悟も決めさせました。

結果、一歩届かず私立高校に進学しましたが、自分で決めた事に挑めたのは得がたい経験でした。

県立受験の直後から大学入試に目を向けさせ、大学入試のしくみについてや高校数学の導入授業がありました。

県立の合否が出る前から教員に取り組み春休みもすすめたので、入学時にはほぼ先取りができていた状況でした。

それがその後の上位キーファに繋がったと思います。

また、5年半の通塾で確実に息子に根付いたのが間違えた問題の検証です。

「問題の解き方の方針は合っていたのか」、「手順は合っていたのか」、「そもそも知識不足はなかったのか」等をしっかりと確認して息子姿を何度もとく目にしてきました。

そんな一つ一つの積みあがりで今回の第一希望合格へ届いたのだと思います。

大学入試の一年以上前から、塾長とは理科大合格への算段をつけていたそうです。

本人は得意な化学と数学に振り切り、英検利用受験が加点幅の面で一番勝ち目がある。と結論づけて実際にそれで勝ち切りました。親から見れば、もう少し英語に取り組んでくれば安心できたかと思いますが、本人がリスクも承知で練った戦い方です。むしろ見守りました。

塾長との問答は時に厳しい場面があると思います。しかし、

問答で鍛えられた「判断の根拠を明確にする力」
が、試験問題に向き合った時に解くべき問題の
取舍選択や答案に生きていたのだと感じます。

受験最終日。大本命の試験を終え、息子は。
「自己ベストの答案は出てきたから、大丈夫だよ。もしも
ダメでも悔いは無い」と、やりきった顔でした。
憧れた学校に挑み続け、戦い抜いた彼を誇らしく思っ
ました。

受験を終えた今、改めて振り返ると青木学院での
時間は、息子には「受験のその先を」学ぶ力を育て、親には
覚悟を決めさせる過程を見届ける難儀な時間でもあり
ました。受験身で行って身になる場所での断じてありません。
意志を持って行かねばならない道場だと思っています。

長くなってしまうかもしれませんが、これから受験を迎える保護者さまの
一助になれば幸いです。乱文乱筆失礼いたしました。

大津寄